

中国地域ニュービジネス特別賞

表彰事業

変形性膝関節診断支援ソフト「KOACAD」

株式会社イノテック

代表取締役社長 伊藤 賢治



受賞理由

変形性膝関節症のレントゲン画像定量化を、世界で初めて東京大学との共同開発で実現している。変形性膝関節診断支援ソフト「KOACAD」を用いることにより、X線画像のデータから膝関節の面積や隙間の距離などを自動的に計測することができる。従来からの医師による目視でのX線画像読影では、評価にばらつきが多いことが問題となっていたが、本ソフトを利用することで、特許の画像処理技術でレントゲン写真から診断に必要な情報のみを抽出・測定でき、X線画像読影結果が一定となるため、客観的な重症度指標を確立することが可能となっている。これまでは研究用として医療機関に納入してきたが、平成27年7月に本ソフトが、アプリケーション単体としては広島県で初の医療機器として認証されたことから、病院への本格的な販売が見込めるようになった。今後、医療保険点数収載に採用され、厚生労働省が取り組んでいる診断基準作りで定量評価法が基準となれば、大規模な市場となる可能性を秘めている。現在、脊椎計測ソフト、股関節診断支援ソフト、リュウマチ診断支援ソフトの開発・特許申請にも取り組んでいる。

ポイント

- ・アプリケーション単体として医療機器番号認証を取得したことにより、今後、医療機器メーカーとの共同開発や販売契約などによる事業拡大が期待できる。
- ・本ソフトを利用してデータを蓄積することにより、変形性膝関節症の客観的な重症度指標を確立でき、新たな治療法や予防法の効果測定にも利用できる。
- ・医療デジタル情報をクラウドにて遠隔診断支援を行うことにより、過疎地域でも都市部と同じ診断支援を受けることが可能となり、さらにはグローバルな事業展開も期待できる。

受賞企業からの一言

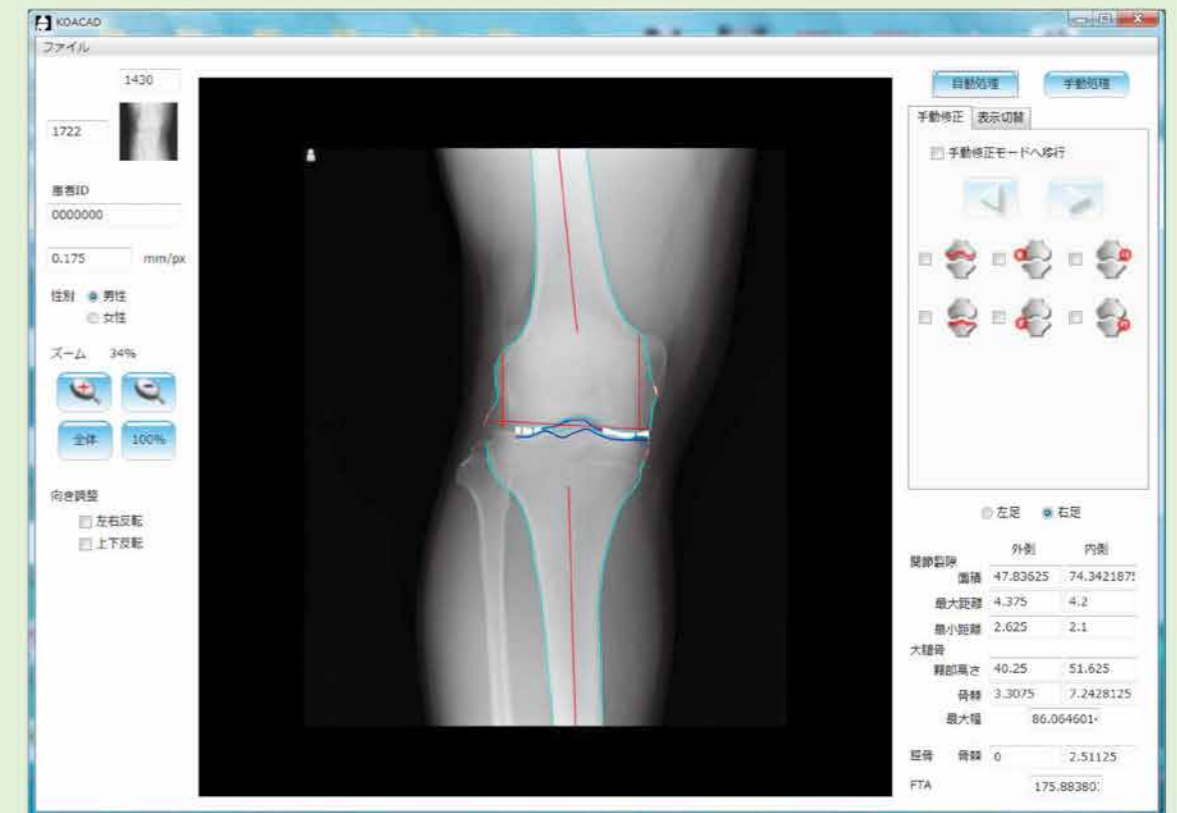
変形性関節症(OA)とは、膝の軟骨が弱り、磨り減って壊れてしまう病気です。高齢者を始め、今後関節症になる予備軍は、2,500万人(厚生労働省調べ)にも上ると報告されています。このため、膝X線画像の定量評価を行い客観的な重症度指標を確立することを目的に「変形性膝関節診断支援システム(KOACAD)」を東京大学附属病院22世紀医療センター特任准教授岡敬之先生と共同開発しました。従来、評価が難しいとされていた膝関節診断をレントゲン写真より自動分析し、信頼された評価とクラウドシステム利用して遠隔診断支援を可能とするシステムです(特許第4934786号)。広島県初の、ソフトウェア単体でクラスII医療機器番号認証を取得したことで、医療機器メーカー・医療機器販売メーカーとの共同開発やバンドル販売契約など、事業拡大に向け次の段階に進めています。イノテックは、「ソフトウェアに思いやりのアルゴリズムをプラス」を信念に、信頼される製品を目指しています。

推薦団体 (株)広島銀行 大手町支店

会社所在地	〒732-0825 広島県広島市南区金屋町2-15 KDX広島ビル2F		
T E L	082-258-5790	U R L	http://www.inotech.co.jp/
会社設立	平成8年7月	従業員数	10名(平成28年4月1日現在)
資本金	10百万円	売上高	158百万円(平成27年6月期)



医療機器認証：変形性膝関節診断支援ソフトKOACAD



特許番号：特許第 4934786 号

広島県初！ ソフトウェア単体での医療機器番号の取得

従来の変形性膝関節症の診断方法は、X線写真を目で読み取るもので、医者毎のバラツキが大きく、客観的な基準が求められていました。本ソフトウェアは DICOM 画像を読み込み、自動処理ボタンを押すだけで、診断に必要なデータを自動的に測定し、医者や患者に分かりやすいレポートを表示します。

株式会社イノテック
http://www.inotech.co.jp/

